

平成18年度第5回理事会議事録

日 時 平成18年11月8日(水) 14:00～

場 所 日本体育協会 理事・監事室

出席者 <理事>

森会長、長沼副会長、佐治副会長、岡崎専務理事、石川常務理事、
泉常務理事、森常務理事、石樽、尾崎、木下、監物、坂本、篠宮、
鈴木、瀬尾、武田、豊島、中山、樋口、古川、松田、渡邊の各理事

<委任>

大谷、小嶋、斉藤、竹田、御手洗の各理事(議長に委任)

<監事>

市川

理事総数27名、うち出席22名、委任5名、計27名で寄附行為第32条に基づき理事会成立。

議案に先立ち、株式会社タニタより本会に対する「タニタ健康大賞」の贈賞式が行われた。

議 案

第1号 第63回国民体育大会冬季大会スケート競技会開催地(長野県)

の決定について (泉委員長)

本年9月開催の第4回理事会で森会長並びに国体委員長に一任されている第63回国民体育大会冬季大会スケート競技会開催地の選定及び決定の件に関して、去る10月12日付で長野県より開催申請書が提出された。

長野県では、これまで10回の冬季大会スケート競技会を開催し、いずれも成功裏に終了しており、また、数多くの国際大会、国内大会を開催するなど、競技運営面においても十分な実績がある。

会期については、平成20年1月26日(土)から30日(水)までの5日間としたい。

本件については、日本スケート連盟も了承しており、国民体育大会委員会の議を経て、文部科学省の了解など必要な手続きも終了していることを資料に基づき説明し、第63回国民体育大会冬季大会スケート競技会の開催地として長野県を決定したいと諮り、満場一致で承認。

なお、第63回国民体育大会冬季大会スキー競技会及びアイスホッケー競技会の開催地については、現在なお、調整中であるため改めて提案する

ことを説明。

承認後、森会長から山口長野県教育長に開催決定書が手渡され、山口教育長より謝辞が述べられた。

報告事項

1. 会務関係

(1) 平成19年度公営競技団体への補助金要望について (岡崎専務理事)

本年7月開催の第3回理事会で会長に一任されている平成19年度公営競技団体への補助金の要望については、日本自転車振興会に対する補助金要望を平成18年度に対して、1千32万3千円、4.78%増の2億2千6百31万8千円とした旨を報告。

(2) 第61回国民体育大会(兵庫県)における国民スポーツ推進

キャンペーンPR活動について (岡崎専務理事)

従来の標語看板及びオフィシャルパートナー各社の連名看板の掲出に加え、新たに大型映像装置を搭載した車両を利用し、より一層のPR効果を図るとともに、地元住民を含む国体観覧者等を対象に参加型のイベントとして、エアロビックなどを行った。また、地元神戸新聞社の協力を得て、「JR三ノ宮駅前」、「三ノ宮駅地下街」、「神戸空港」の大型ビジョンを利用し、キャンペーンPR映像や協賛社のCMを放映したことを報告。

(3) 平成18年秋の勲章・褒章受章者について (岡崎専務理事)

去る11月3日に勲章及び褒章の受章者が発表され、本会推薦の勲章受章者として、日本テニス協会副会長の川廷 榮一氏が旭日中綬章、日本バレーボール協会元副会長の喜島 慶一郎氏が瑞宝中綬章、日本ソフトテニス連盟元理事の奥田 忠雄氏並びに全日本銃剣道連盟理事の石崎 八藏氏がそれぞれ旭日双光章を、また、褒章受章者として、日本体操協会元副会長の朝倉 正昭氏が藍綬褒章を受章されたことを報告。

2. 国民体育大会関係 (泉委員長)

(1) 第61回国民体育大会(兵庫県)の終了について

第61回国民体育大会は、国体史上初めて夏季大会と秋季大会を一本化し、9月30日(土)から10月10日(火)までの11日間、開会式に天皇皇后両陛下、競技会に各宮様、閉会式に秋篠宮殿下のご臨席を賜り、兵庫県神戸市他30市6町で、正式競技37競技と公開競技2競技(スポーツ芸術を除く)に、47都道府県から選手・監督24,870名、本部役員1,014名の計25,884名が参加して行われた。

特に、本大会から、従来の陸上競技、水泳、体操(競技)の3競技に加

え、サッカー、テニス、卓球、カヌー、ボウリング、ゴルフの6競技に中学3年生の参加が拡充され、9競技に計407名が参加。

なお、大会運営の簡素・効率化の一環として、クレー射撃、ライフル射撃の2競技において、県外の施設を活用し、競技会を実施した。

大会期間の前半は、あいにくの雨天となったが、大会運営に大きな支障はなく、会場地を始めとする関係者の方々のご尽力により、特に大きな事故もなく、無事終了した。総合成績は、兵庫県が男女総合成績及び女子総合成績で念願の初優勝を果たし、天皇杯・皇后杯の両杯を獲得した。

また、国民体育大会への県民参加をねらいとして実施したデモンストラーションとしてのスポーツ行事には、40行事に23,565名が参加したことを報告。

(2) 第61回国民体育大会(兵庫県)におけるドーピング・コントロール検査の終了について

検査については、従来、本会が主体となり実施していたが、今回の大会より、(財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)が主体となり、競技会検査で12競技88検体、競技外検査で16競技57検体、合計延べ28競技145検体で実施された。

検査の結果は、現在、世界アンチ・ドーピング機構(WADA)公認の検査機関である三菱BCLにて分析中であるため、JADAより報告があり次第、関係機関・団体に通知するとともに、検査対象者本人へは本会ホームページにて個人が特定できない形にて結果を公表する旨を報告。

(3) 第61回国民体育大会(兵庫県)ドクターズミーティングの終了について

開会式前日の9月29日(金)に神戸市内のホテルで開催、各県の帯同ドクター代表等160名が出席した。

今回で13回目となる本ミーティングは、スポーツ活動時の突然死をテーマとした講演及び全競技会場に設置された救命装置AED(除細動器)に関する説明に熱心な意見交換が行われるとともに、国体におけるドーピング検査での注意点などの解説、さらに(財)日本サッカー協会田嶋専務理事による特別講演「新生日本代表・これからの日本サッカーの方向性」などが行われことを報告。

(4) 第60回国民体育大会秋季大会実施競技における参加資格違反への対応について

昨年、岡山県で開催された第60回大会において、テニス競技で第2位となった福井県の成年女子の2選手と軟式野球競技で第3位となった大阪府の成年男子一般Aの1選手が、参加資格を満たしていないにもかかわらず出場し、入賞を果たしていたことが判明した。

テニス競技への対応は、国体委員会委員の意見等を聴取した上で、(財)

日本テニス協会及び(財)福井県体育協会に対し、森会長及び国体委員長の連名による文書により嚴重注意を与るとともに、テニス競技で福井県が獲得した21点を抹消し、次順位の都道府県の順位を繰り上げ、得点を与えることとした。

また、軟式野球競技への対応としては、現在、国体委員会委員の意見を取りまとめているところであるため、今後、意見等を取りまとめた上で、森会長と相談し、対応方針を決定していきたい。

なお、競技成績の見直しに伴う、各都道府県の男女総合成績及び女子総合成績については、改めて理事会に報告する旨を説明。

その後、第61回国民体育大会の終了に関して、武田理事(兵庫県体育協会副会長)より謝辞が述べられた。

3. 国際交流事業関係 (瀬尾委員長)

(1) 第10回日韓スポーツ交流事業 成人交歓交流(受入)の終了について

本年度で10回目となる日韓スポーツ交流事業の成人交流は、去る10月20日(金)から26日(木)までの7日間、鳥取県において韓国選手団の成人174名を受け入れて実施した。

本交流事業では、鳥取県で同時期に開催された第19回全国スポーツ・レクリエーション祭への参加を中心とし、韓国選手は10競技に参加した。韓国選手団の成績については資料のとおりであるが、受入地の鳥取県関係者及び対戦した参加者との親善交流等に成果をあげ、大変有意義な交流事業となった。

(2) 中華全国体育総会第61回国民体育大会視察代表団受入の終了について

兵庫県で開催された第61回国民体育大会の開会式に、于再清副主席を始めとする5名の中華全国体育総会代表団を招待し、9月26日(火)から10月1日(日)の6日間の日程で受入を行ったことを報告。

4. 日本スポーツマスターズ関係 (岡崎委員長)

・日本スポーツマスターズ2006の終了について

本年で6回目となる「日本スポーツマスターズ2006 広島大会」は、去る9月15日(金)から19日(火)までの5日間、広島県下5市・23会場にて開催され、新たにソフトテニスを加えた13競技に全国から6,658名という本大会史上最多の選手・監督が参加し、熱戦を繰り広げた。

開会式は、森会長も出席し、参加者の親睦・交流を目的とした前夜祭的な形式で行われ、選手、監督関係者1,509名が参加するとともに、日本スポーツマスターズの広報・PRにご協力いただいているシンボルメンバーも参加し、華やかな雰囲気で行われた。

また、9月16日(土)、17日(日)の2日間、バドミントン、ボウリング、水泳、バレーボールの4競技において、高円宮妃殿下のご臨席を賜ったことを報告。

5. 生涯スポーツ推進事業関係 (石川委員長)

(1) 平成18年度「体育の日」中央記念行事の終了について

平成18年度「体育の日」中央記念行事/子どもの体力向上キャンペーン事業 元気アップ子どもスポーツフェスティバルを、去る10月9日(月・祝)に本会及び文部科学省、日本スポーツ振興センター、日本レクリエーション協会の4団体の共催により実施した。

オープニングでは開会行事に引き続き、子ども体力向上キャンペーンの一環として、全国の小学生から募集したポスター及び標語の優秀作品の表彰式を行い、計6名が表彰された。

当日は、晴天にも恵まれ、小学生及び親子を対象としたスポーツ教室を始め、国立スポーツ科学センターの諸施設を活用し、イベント開催の目的の一つである「体を動かすことの楽しさや大切さを多くの子ども達に知ってもらいたい」という意図を参加者に伝える良い機会になった旨を報告。

(2) 第19回全国スポーツ・レクリエーション祭の終了について

「ふれ愛の 砂丘の風に 光る汗」をスローガンに去る10月21日(土)から24日(火)までの4日間、鳥取県において開催された。

開会式は、初の試みとして、各県の参加者ができるだけ多く参加し、鳥取県民とのふれあい、交流ができるように、東部(鳥取市)、中部(倉吉市)、西部(米子市)の3会場に分散し、主会場の鳥取県民体育館での式典の映像を、中部と西部の大型スクリーンに映し出し、一体感を持たせるような形式で実施した。

各競技については、県下13市町村で行われ、都道府県参加種目には、18種目に7,931名、フリー参加種目には7種目に2,743名が参加し、盛会裏に終了した旨を報告。

以上の報告をいずれも了承後、14時55分閉会。

なお、次回理事会は、平成19年1月10日(水)15時から開催し、会議終了後16時から記者クラブとの懇親会を開催することを確認するとともに、諸外国等との交流や本会主要行事等の際に使用するネクタイを4種類作成したことを報告。